

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2871600603		
法人名	社会福祉法人 千鳥会		
事業所名	グループホーム しおさい		
所在地	淡路市郡家字居屋敷374番地1		
自己評価作成日	平成30年 2月 20日	評価結果市町村受理日	平成30年3月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク兵庫福祉調査センター
所在地	尼崎市南武庫之荘2丁目27-19
訪問調査日	平成30年3月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○ ご利用者は、グループホームに暮らす地域の住民としての視点で捉え、地域社会での共同生活を継続できるよう、又ご家族、知人及び、地域住民の方々との交流を通して、社会参加に繋がるように重きを置いています。日常の共同生活に於いては、ご利用者個々が役割をもてる生活となるように努めています。社会参加として毎日の散歩、地域のサロン活動や外出行事等の参加で交流を行っています。例えば朝の散歩を日課とし、日頃から地域住民との繋がりを大切にしています。また、日々の生活での快活、楽しみのある暮らしを送れるよう、行事等を月毎に取り入れながら行っています。
 ご利用者・ご家族間の関係性の維持と継続の為に、例えばご利用者の誕生日には、可能な範囲でご家族と外食に行っています。また、外出や、外泊も前もっての連絡は要りますが、いつでも自由としています。29年度からは、地域にある事業所との交流として、新たに作業所の皆さんとの繋がりにも努めています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人千鳥会の理念「福祉はいつでも全ての人の為に」等とGHしおさいの理念「家庭的な雰囲気のもと安らぎある環境作りを目指します」をもとに職員全員理解しケアに当たっている。場所は淡路島郡是の多賀の浜を望む景勝地に有り、日中潮の音を聞き穏やかに暮らせる場所に立地している。又地域交流の場としてホーム前の畑を作業所の方々に開放し、大いに喜ばれている。地震対策として津波を想定した水害対策マニュアルを作成し、万一年に備え年4回の高台への避難訓練を実地し、安心・安全の事業所になるべく対策をしている。

いおさいの理念

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼で理念、基本方針を唱和し職員間の共有を図り、家庭的なケアについて、職員で意見交換しながら日常生活において具体的に実施出来るように取り組んでいる。	「家庭的な雰囲気のもと、安らぎある環境づくりを目指して」を職員全員が共有し、実践につなげるために、理念と方針を玄関入り口に掲示し、毎日の朝礼時に唱和している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	日常生活で、日課として散歩をしており、地域住民から声をかけられるような信頼関係ができています。(冬期は、特に風が強い日も多く、ご利用者の健康を考慮し、散歩は控えています)。地域の公民館活動や、地域サロン活動にも定期的、積極的に参加し、交流を持てるようにしている。地域の祭りや、行事へ参加しながら地域住民、地域との交流を図っている。近所にある保育所や、小学校の行事に招待を頂き、回数は少ないですが、参加させてもらっています。また、29年度からは、近所にある、作業所の皆さんとの交流も始めています。	自治会に加入している。地域のお祭り、社協の福祉祭り、保育所の運動会、小学校の学習発表会、戒神社の子ども相撲等いろいろな地域の行事に参加している。また、事業所の「しおさい秋祭り」には地域の人たちを招待している。今では、毎日の散歩で地域の方と出会ったときには声をかけられるようになってきている。	事業所と地域との付き合いはよくできているが、事業所の行事について地域の認知度が足りないように思う。本部の社会福祉法人千鳥会と連絡を取り合い「しおさい便り」を発行し、地域と家族への情報発信手段として、地域の福祉施設「しおさい」がここにありとのPRとしては如何かと期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方から認知症の介護の仕方や相談などを受け入れる体制にある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2カ月毎に市職員、民生委員、町内会、社会福祉協議会、家族代表、利用者、職員を参加とし定期的に開催しています。取組や、活動状況、利用者の事例紹介等を報告しています。参加者からは淡路市、地域の高齢者等情報を頂いています。	2ヶ月に1回開催され、包括支援センター職員、民生委員、町内会、社会福祉協議会、家族会代表等が参加している。運営報告や事業報告、意見交換等を行っている。意見交換の中でいろいろな情報が得られそれを運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と同様から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	淡路市、長寿介護課担当者と随時にメールのやり取りなど連絡を行っている。また、淡路市介護予防口腔機能向上推進連絡会の委員として協力関係を築いています。	市の長寿介護課担当者と随時メールの交換を行っている。また、地域包括支援センター職員や医師が参加する市の介護予防口腔機能向上推進連絡会に出席し、いろいろな情報を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わない事を、職員が共通意識を持っています。身体拘束は行わないケアに取り組んでいます。 * 玄関入り口は、自動ドアですが、離施設の危険がある為、安全第一の為、職員の操作で解錠するようにしています。	身体拘束に関するマニュアルを作成し、年間研修計画の中に位置づけ、勉強会を定期的に行い、職員の共通認識を図っている。玄関のみは施錠されているが、入居者の自由を束縛しないようにさりげなく見守っている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底	高齢者虐待/身体拘束の勉強会を実施し		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ています。また、日頃からTVや新聞等から虐待のニュース、情報が報じられた際は、都度朝礼で自己啓発に取り組んでいる。虐待が行われる事がないよう注意し、防止に努めています。虐待のない介護は当たり前の事として職員も理解しています。	身体拘束をしないケア同様、年間計画の中に位置づけ、勉強会を実施している。身体的虐待だけでなく、年長者の尊厳を傷つける言葉遣いや行い等の心理的虐待にも注意を払っている。	

自己 三者	項目	自己評価	第三者評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7) ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議で、高齢者の尊厳、権利擁護の勉強会を行っています。	現在、成年後見制度の利用者はいない。成年後見制度や日常生活自立支援等、権利擁護に関する勉強会を開いて職員の理解を深めるよう努めている。	
9	(8) ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはケアに関する理念、方針、取り組みと、退居を含め、説明している。本人、家族にとっての、不安 疑問などに十分説明するようにしている。	入居前に事業所の方針やサービス等について詳細に説明し、疑問点を聞きながら納得の上で契約を結んでいただいている。途中、契約内容に変更があるときは、その都度説明し納得をいただいている。	
10	(9) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時、ご家族に利用者の近況等を報告するようにしている。また、ご家族から話しやすい環境作りを努めている。所長(管理者)へのご意見用紙も設置している。出された意見は職員会議、ユニット会議で伝え、話し合う事としています。 定期にご家族の意向、意見については、介護計画作成時にも伺っています。	家族の来訪時に入居者の近況を報告するとともに、意見・要望を聞いている。諸費用を事業所に直接納めていただき、家族が月に1回は来訪していただく機会を作っている。ご意見箱も設置している。これらの意見・要望は職員会議やユニット会議で話し合わせ、運営やサービス向上に活かしている。	
11	(10) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議・個別面談などで意見を聞く機会を設け努力している。又日頃から職員とのコミュニケーションを持ち、職員から話しやすい、聞き出しやすい環境に努めています。	職員会議や個人面談(年2回実施)で意見・要望を聞いている。また、日頃から職員間のコミュニケーションを大切に、何でも言える、話しやすい環境づくりに努めている。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場の状況を把握しながら職員の努力などを知るよう努めている又、職員の資格取得に向け支援を行い質の向上を持てる働きがけている。		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の勉強会、研修会に全職員参加を目標とし、育成している。又、職員のスキルアップの為に、年間教育計画で勉強会(教育訓練)を実施し、サービスの質の向上に向け取り組んでいる。法人外の研修にも参加できるように配慮しています。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業者からの見学の受け入れ態勢があります。他法人(福祉・医療)との連絡会に参加しています。法人内研修に職員が参加している。市主催の通所サービス研修会には今年度は参加しました。グループホーム協会の研修会等もありますが、業務上参加できていません。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状況、現在の状態を把握するように努めている。また、可能な限りご本人、家族に実際にホームに来所、見学して頂き、少しでも不安の解消となる働きをしている。ご家族、本人には前もって見学をして頂けるように努めている。また、通所サービスを利用し、グループホームの雰囲気慣れて戴くようにして入居された方もいます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの相談に管理者、計画作成担当、介護職員が、都度の相談にのりながら不安等の解消に努めるようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、家族の話し合いの中で、現在の状況を確認し、可能な限り対応している。他事業所と調整も考えながら対応していく		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者は、地域に暮らしている地域住民としての視点から、相互に信頼関係を築き、共同生活を過ごしていけるように努めている。また、例えば、日常生活の中での掃除洗濯 調理等家事は、ご利用者と一緒に行い、共同生活社会でのご本人の役割を持つように心掛け、職員からは感謝の気持ちを忘れないよう、且つ、相互に協働して暮らしていけるよう取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者個々に担当職員がおり、利用者の状況は都度、ご家族に連絡している。基本的に月に1回以上は、来訪の機会と来訪時のコミュニケーションを持ち、また、ご利用者の誕生日月には、可能な範囲で、ご家族と夕食をして頂けるように依頼しています。ご家族との関係性維持と継続に努めています。ご家族との関係性継続には特に力を入れています。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域での行事、お祭りや、地域サロン活動、学校行事等へ積極的に参加し、地域住民、学校関係との馴染みの関係作り、交流に努めている。また、面会に訪れ来てくれる親戚知人、等受け入れ、利用者とコミュニケーションできる場所としても大切にしています。	入居者には地域の方が多く、馴染みの人や場所も多い。これらの人や場所との関係が途切れないようにするため、地域の行事や祭り、地域サロン活動、学校行事等に積極的に参加している。また、事業所の行事にも地域住民を招待している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の生活の中でご利用者個々のペースを大切にしながらも、共同生活の仲間関係を築けるよう把握しながら、日常的に職員から常に声かけに努めている。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院 他施設に入居されいても、訪ねたりし良い関係作りをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者の表情や、日常生活の言動から意向や希望をくみ取るようにしている。共同生活の中でも、一人の時間になりたい方は実際におられ、ご本人のペースを大事にしている。散歩やドライブに個別に行くなどにも行っている。	どんな暮らしをしたいか、できるだけ本人の希望を叶えるため、本人やその家族から今までの暮らしや希望を聞き取ったり、本人の日常生活の言動から推測している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントなどの情報を元に、個々の背景、生活歴を把握するように努めている。ご家族の方の訪問時に教えて頂く事もある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者の個々の生活リズムを理解、把握しながら、日常生活の行動や動作を観察しながら把握している。又日常の体調の変化、状態変化などは、都度の職員間の連携で把握するように努めています。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向、家族の希望、意向を聞きだしながら、各利用者担当者、計画作成担当、管理者、ユニット介護職員で検討し、出来るかぎり本人らしい日常生活を送れるよう介護計画の作成に努めています。	利用者やその家族から希望や意見を聞き取り、作成担当者を中心に、担当職員で話し合い介護計画を作成している。年2回の定期的な見直しはもちろんより良い支援を行うためモニタリングを随時行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者の日々の状態を個別に記録しており、職員間の情報の共有を徹底し評価を実施。ケアプランも評価しやすい記入方法で情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	共用型認知症デイサービスを実施しており、地域から1日3人の定員で近隣地区の利用者が利用して頂いています。一日を入居者と過ごし、和やかな関係が出来ている。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	普段より他事業者とは、連携を密にしており、運営推進会議のメンバー（行政 町内会会長 社協 民生委員）とも情報交換もしている。 地域に2か所ある高齢者のサロン活動と、公民館での百歳体操に参加し、利用者が地域の住民として暮らせるように努めている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	総合病院との協力提携 さらに近隣の医院とは24時間対応可能で、希望に応じた往診もして頂ける関係が出来ている。又近隣の先生とは状態に応じて相談内容により専門医院や総合病院への紹介もして頂いている。入居者の方には、入居後も入居前のかかりつけ医に引き続いて担当して頂いています。	入居前からのかかりつけ医との関係を重視してもらっている。現在、入居前からのかかりつけ医を受診している方は15名、ホームの協力医を受診している方は3名。協力医療機関や近隣の医院とも連携を取り、24時間対応していただける関係を築いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は配置していませんが、健康管理面では、家族の協力も得ながら、かかりつけ医への定期、随時、また、緊急時の受診に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、病院側との情報提供、情報交換を行っています。退院の前には、病院側のカンファレンスにも参加し、関係作り、維持に努めています。		
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のケアは行っていませんが、重度化については、家族に前もっての説明を行うようにしています。また、要入院状態や、特養ホームへの入所までは、できる範囲でのケアに努めています。	入居時に重度化した時の対応や看取りは行っていないことを説明している。ホームでの生活ができなくなった時には、本人や家族の意向に沿うよう同グループの特養や協力病院への入所や入院に向けて最大限の支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルや、夜間の緊急マニュアルを作成し全職員が対応できるようにしている。また、急変時は、すぐに救急車を要請するよう職員個々で心掛けている。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	総合防災訓練/避難訓練を実施している。近隣の方にも周知しているが、参加は出来ない時がある。今年度は、東北での河川氾濫によるグループホームの自然災害があった為、国⇒県⇒市からの依頼で、水害対策マニュアルを作成している。南海トラフ大地震・津波警報発令の避難訓練を行っている。	南海トラフ地震・津波避難訓練マニュアルがあり、津波対策には特に力を入れている。年4回、高台への避難訓練を行っている。夜間を想定した訓練には消防署の協力を得ている。非常時のためにアルファ米や水を3日分備蓄している。カセットコンロも準備している。	

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇委員会が中心となり、処遇目標を、毎日の朝礼で唱和し、利用者の尊厳、プライドを大切に職員同士で意識を持ち接するようにしている。	接遇委員会が中心となり、尊厳について話し合い、その日の目標を朝礼時にみんなで唱和し、職員が共有認識を持って入居者に接している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者毎に応じた声かけを行い、また、意思表示の困難な方や、難聴がある方には、メモなどの活用、利用者の表情などをから、できる限りに自己決定できるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活リズムを把握するように努めながら、できる限り本人がしたい事を聞いたり、できる事を本人のペースでして頂いたり、一日を本人のペースで過ごせるように努めている。利用者によっては、自身の居室で横になったり、テレビを観て過ごされる方も居られます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院や理容室へ行かれる方も居られます。職員は女性なので、女性の感性で服、身だしなみ等をお手伝いしています。利用者の中には化粧を自らして、おしゃれをされる方がいます。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常生活を通して職員が嗜好の把握に努め、時には献立と一緒に考え、日常の食事作りはご利用者ができる事をしていただきながら一緒になって作っている。片付け、食拭き等も一緒に行うようにしています。また、会話を取りながら楽しく行えるように努めています。また、時期により畑で育てた野菜を献立に取り入れています。行事食、外食も取り入れながら工夫を取り組んでいる。	献立は、入居者の嗜好も考えながら職員が作っている。調理の段階から盛り付け、配膳、後片づけまで利用者一緒に行い、職員と利用者が同じテーブルを囲んで食事している。会話が弾み楽しそうである。ホームで採れた野菜を献立に取り入れたり、行事食、外食等を取り入れたりして食事の楽しさを味わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々人の状態、口腔、嚥下状態に応じ食事量、食事形態を合わせ、また、食事摂取量、水分摂取量の状況の把握を行いチェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声掛けを行い、歯磨き、うがい、口腔ケアを行っている。自立状況に応じ介助し口腔内清潔保持に心がけている。近隣の歯科医に相談、受診してる。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々人の排泄状況を把握するため、排泄表に記入し排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を基本とし、トイレ誘導を行っている。夜間は転倒の危険を考慮し、安全を優先し、居室でのポータブルトイレ対応、尿パット交換にて対応している方も実際には居られます。また、排泄用品も検討しながら購入している。	トイレでの排泄やおむつをしなくて暮らしを支援するために、一人ひとりの排泄パターンを把握し、その時間が近づけば声掛けし、さりげなくトイレへ誘導している。夜間はポータブルトイレ、オムツ、尿パット等、個々に応じて対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事面では繊維質のあるもの取り入れバランスを考えている。朝食時には、野菜・果物・ヨーグルト入りジュースを作り、牛乳もを摂るようにしています。また、運動面では、毎朝の散歩、また屋内廊下の歩行運動や日常生活の動作を出来るだけ意図的に行い自然排便が出やすいよう心がけている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	外出の多い利用者は家族の希望により変更し、また、入浴拒否の方がおれば、時間を空ける、翌日に変える等、都度に日や時間を変え入浴している。	入浴は週2回(夏場は週3回)午後を原則としている。その日入浴できない方には、日時を変更してその人の希望の浴うよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の安眠を図る為、充実した活動を心がけている。個々の生活習慣を把握、状況に応じ休息をとって頂くよう支援している。高齢で虚弱な方はお昼寝の時間を摂るようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	緊急時対応ファイル、お薬手帳にて薬内容用紙があり、職員がいつでも把握できるようにしている。内服薬投与時は、薬と利用者の名前確認し、かつ利用者の前で名前を復唱し、手渡し服用するまで場を離れないようにして誤薬を防止している。薬の変更、状態変化時は主治医の連携が出来るよう		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメントを把握し、日常生活を過ごしていく中で得意分野や出来る事、嗜好を探し出し、できる事は発揮できるように声かけし促している。個々に合った役割を見つけ楽しみとなるように心がけている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	冬期は、風邪、インフルエンザ等の感染の心配がある為、外出を控えています。冬期でも日課として朝の散歩に行っている利用者もいます。冬期以外はできる範囲で、散歩に行くようにしています。季節に応じた外出(ドライブ、地域サロン活動、地域の公民館、遠足、喫茶、外食、買物等)などに出かけています。また、屋外では歩行困難な方は、車いすを使用して外出しています。ご家族には、利用者の誕生日月の可能な範囲での外食をお願いしている。実際にご家族と利用者で外食に行ってください。	天候の悪い日以外は、散歩を日課としている。歩行困難な方は車椅子を利用している。地域の行事、地域サロン活動、公民館、喫茶、買い物等にもよく出かける。春には桜、秋には紅葉と季節に応じて遠出している。その人の誕生日には、ご家族の協力を得ながら外食に出かけている。	

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の了解の元、自分でお金を持っている人はいる。家族からお小遣い金として預かり管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から希望により電話や手紙を出せるよう支援体制でいる。ご家族に電話するご利用者もいます。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは、季節ごとの飾り物や展示物、行事等の写真、掲示物などを配置し、利用者にとって居心地の良い、落ち着いた雰囲気の良い環境となるよう努めています。	居間・食堂・廊下等の共用空間には、季節を感じさせる掲示物や行事写真、入居者の作品等が飾られている。空気清浄機や加湿器も備えられ、快適な空間となっている。2階には天窓があり、自然光を取り入れた素敵な空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや廊下にソファを置いたり、利用者が落ち着いてくつろげる空間に配慮しています。又外にはベンチを置き日光浴を楽しむ場作りもしている。ご利用者の中には、居室で自身のペースで自由に過ごされる方もいます。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真、家具、飾り物、カーテン等、以前に自宅で使っていたもの物等を用意し、本人、家族で相談しながら配置しています。家族との写真など、また日用品なども個々に合わせた工夫もしています。利用者にとって居心地の良い居室環境を整えています。	エアコン、クローゼット、洗面台、消灯台が常備されている。ベットやダンス、ソファ、テレビ等を思い思いに配置し、家族の写真や思い出の作品を飾って、その人らしい居心地の良い居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者のADL状態に合わせて、リビングのテーブルには、手作りの「足置き台」を置いたり、又、ベッドに手すりを設置する事など、本人の現存能力が安全に活かせる工夫をしています。		

基本情報

事業所番号	28716000603
法人名	社会福祉法人千鳥会
事業所名	グループホームしおさい
所在地	淡路市郡家字居屋敷374-1 電話 0799-80-5050

【情報提供票より】平成30年1月1日事業所記入

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	22 人	常勤14人非常勤8人常勤換算	14.3人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋造り2階建ての1・2階部分
------	-----------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	23,000 円	その他の経費(日額)	
敷金	無し		
保証金の有無 (入居一時金含む)		有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	170 円	昼食 430 円
	夕食	500 円	おやつ 100 円

(4) 利用の概要 1月1日

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	3 名	要介護2	5 名		
要介護3	10 名	要介護4			
要介護5		要支援2			
年齢	平均 85.8 歳	最低	76 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	特定医療法人順心淡路病院
---------	--------------

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び第三者評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	「グループホームしおさい」としての広報紙(紙媒体)が無い為、地域と家族への情報発信手段として、『しおさい便り』を発行してもっとPRしてはどうか。 * ホームページ、フェイスブックでの情報は発信している。	○しおさいの情報を、紙媒体で作成して地域に情報発信していく。	○年に季節毎に4回を目標に、作成し地域や、ご家族に配布する。	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。

(様式2(2))

サービス評価の実施と活用状況(振り返り)

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】	
実施段階	取り組んだ内容 (↓該当するものすべてに○印)
1 サービス評価の事前準備	<input type="radio"/> ①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
	<input type="radio"/> ②利用者へサービス評価について説明した
	<input type="radio"/> ③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
	<input type="radio"/> ④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
	<input type="radio"/> ⑤その他()
2 自己評価の実施	<input type="radio"/> ①自己評価を職員全員が実施した
	<input type="radio"/> ②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
	<input type="radio"/> ③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
	<input type="radio"/> ④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
	<input type="radio"/> ⑤その他(自己評価を管理者、計画作成担当者が中心になり実施した。)
3 外部評価(訪問調査当日)	<input type="radio"/> ①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
	<input type="radio"/> ②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
	<input type="radio"/> ③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
	<input type="radio"/> ④その他()
4 評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="radio"/> ①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
	<input type="radio"/> ②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="radio"/> ③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
	<input type="radio"/> ④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="radio"/> ⑤その他(・職員には、評価結果を報告、説明しました。・運営推進会議にて説明し報告しました。・ご家族には来所時に、説明致致します。・評価結果については、閲覧できる状態にします。 淡路市へ提出致しました。運営推進会議出席時にも報告致しました。)
5 サービス評価の活用	<input type="radio"/> ①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
	<input type="radio"/> ②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
	<input type="radio"/> ③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
	<input type="radio"/> ④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
	<input type="radio"/> ⑤その他(目標達成を作成し、職員に説明、周知致します。 運営推進会議で説明、報告致します。)